

福島県県中地方の地域づくり

○ 福島県県中建設事務所企画調査課 佐藤文裕
福島県土木企画課 正会員 松本英夫

1. はじめに

福島県では「地域の特色を生かした活力ある県づくり」を県政の3つの柱の1つに据えて、官民一体となって地域づくりに取り組んでいる。

しかしながら、地方には多くの地域資源があるにもかかわらず、そこに住む地域住民は、それらの良さや特色に気付かず、地域活力の向上に結びつかないことも少なくない。

社会資本整備に対する県民のニーズは多様化しており、整備量より質が求められている。

住民がより良い地域を育もうとする中で、私たち土木技術者は、手段としての社会資本整備をどのように進めていくことができるのかについて、福島県県中地方の1事例で考えてみたい。



図-1 位置図

2. 中田町の事例

(1) 中田町の概要

郡山市中田町は、郡山市の最東部に位置し、人口約6千人の過疎中山間地であり、海老根和紙や柳橋歌舞伎を代表とする伝統文化が息づく地域である。その中心部を、地域の重要な道路である主要地方道小野郡山線が走り、一級河川黒石川が東西に流れている。

(2) 中田町の地域づくり

中田町の柳橋地区では、中心部の人家連担地区の

県道に歩道がなく、交通弱者に危険であった。

以前から歩道設置の要望があったが、現道拡幅するには沿道の家屋補償が膨大となり、バイパスとするには少ない耕地のほとんどが潰れてしまうなど、事業化できなかった。

そこで、中田町の住民と当事務所では、平成16年度より、地域づくりと社会資本整備の活用に関する勉強会を実施することとした。

これは、単に道路事業の計画に住民参画を狙ったパブリックインボルブメントではなく、地域活性化、地域資源を活用するための地域住民主体の勉強会であった。その中から、手段である道路はどのような整備が必要かを導き出そうと考えたのである。

平成17年度には、食や伝統文化といった視点で「地域づくりセミナー」を開催、その後、「地域づくり勉強会」で域資源の掘り起こしについて議論を深め、平成18年度には「地域づくり作戦会議」を組織、「情報発信」「おもてなし」の実践を進めていった。



写真-1 勉強会の様子



写真-2 生産物直売所

(3) 黒石夢歩道の設置

そのような中、平成18年7月に、中田町柳橋地区の人家連担地区の歩道整備を考える意見交換会を実施した。

ここで、県道と並行する黒石川の堤防天端に舗装された遊歩道を整備し、地域の歩行空間として活用する案を検討したところ、この河川堤防には、高齢者が寄り合う運動場や柳橋歌舞伎の演舞場、保育所が近接しており、多くの交通弱者の安全が確保でき

キーワード：持続可能な地域づくり

連絡先 福島県郡山市麓山一丁目1番1号 TEL024(935)1449・FAX024(935)1509

ることから地域の方々の賛同が得られ、事業を実施した。



図-2 黒石夢歩道位置図



写真-3 現在の県道（左）と完成した黒石夢歩道（右）

これを契機に、柳橋町内会には、「柳橋地域振興検討会」が創設され、地域でできることは何かを継続的に検討実施している。

3. 地域づくりへの土木技術者の関わり

社会資本の量から質が求められる時代となった今、今後は地域づくりを支える手段としての社会資本整備が求められている。そのために、われわれ行政の土木技術者は何をすべきか考えなければならない。

その取り組み事例として中田町の事例を挙げた。

中田町の取り組みが成功した点として、以下の点が考えられる。

- ①持続可能な地域づくりについて、地域の全体最適化を目標にしたこと。
- ②地域に関わる多くの人が目的を共有したこと。
- ③目的達成のため、各人が役割を分担できたこと。
- ④楽しんで地域づくりができていていること。

従来から、多くの地域づくりは、企画部門や産業部門の行政機関や諸団体が関わる中で、地域住民との下に進められてきたとも言える。

近年、過疎中山間地域を中心とした地方の疲弊が進む中、地域づくりの視点が、地域資源の再考や地場製品の提供等を通じた地域間交流の促進を中心に

なっている。

このような流れの中で、地域づくりを支える社会資本を通じ、土木技術者が地域づくりに関わる機会が大きくなってきたと言える。しかし、これまで、行政主導の地域づくりが展開された地域では、予算の継続や担当職員の意識の差異などから、持続性などの面で問題も少なくない。

今後、地域づくりに携わる土木技術者が増加していくと考えられる中で、社会資本の役割を目的として捉えるのではなく、地域の安全安心の確保や地域活力の向上を支える手段である事を再認識する必要がある。そのためには、従前の土木技術力のほかに、企画力やコミュニケーション能力といった調整能力の涵養がますます重要になってくる。

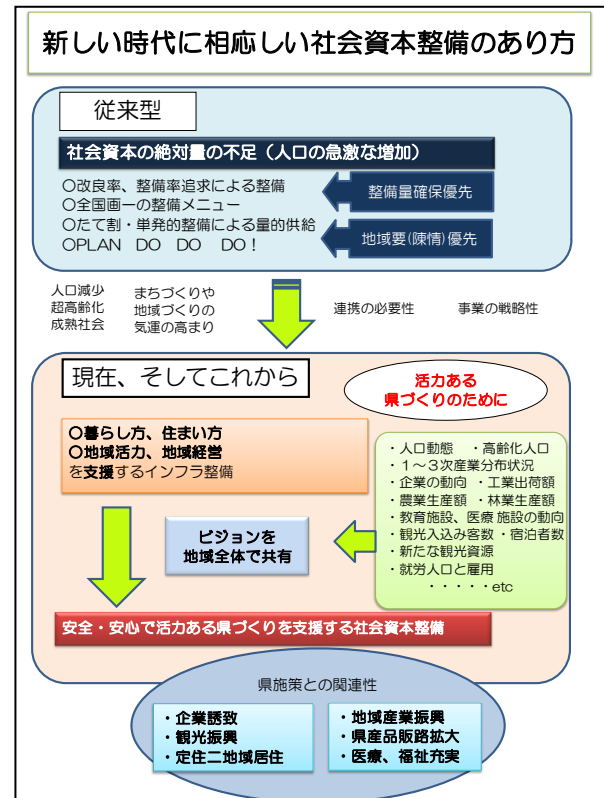


図-3 新しい時代にふさわしい社会資本整備のあり方

4. おわりに

中田町での取り組みは、一朝一夕では為し得たわけではない。数年の歳月をかけた、官民一体の信頼関係が必須条件である。

今後とも、“地域とともに考え、ともに作る”、安全安心、地域の活力向上に資する社会資本の整備に努めていきたい。